

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2022 年度第 4 回理事会 議事録

日時： 2023 年 3 月 18 日（土）13：00-16：00

場所： 日本臨床細胞学会事務局 会議室

WEB 同時開催

役員総数： 42 名（理事 39 名、監事 3 名）

出席総数： 理事 37 名

（理事）（現地） 佐藤 之俊、井上 健、大平 達夫、岡本 愛光、齋藤 豪、進 伸幸、田畑 務、中村 直哉、前田 一郎、松浦 祐介

（理事）（WEB） 青木 大輔、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、伊豫田 明、植田 政嗣、榎本 隆之、小笠原 利忠、小田 瑞恵、川名 敬、澁木 康雄、生水 真紀夫、田尻 琢磨、都築 豊徳、長尾 俊孝、羽場 礼次、廣岡 保明、藤井 多久磨、三上 芳喜、森井 英一、矢納 研二、山口 倫、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

（膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ）（WEB） 平林 健一

出席総数： 監事 3 名

（監事）（現地） 長村 義之、土屋 眞一

（監事）（WEB） 佐々木 寛

（総務委員会委員）（WEB） 山下 博

（総務委員会幹事）（WEB） 片岡 史夫、星 利良

（国際交流委員会幹事）（WEB） 西野 幸治

（中田公認会計士事務所）（WEB） 糸永 圭一

本理事会は、定足数の半数以上（理事 39 名中 37 名出席）を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第 23 条第 3 項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については＊印を付す。

本理事会の開催にあたり、＊佐藤 之俊 理事長、＊齋藤 豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、＊中村 直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、

＊森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、＊岡本 愛光 副理事長[財務、渉外]の挨

拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶（佐藤 之俊）

今回は、本年度第4回の理事会となる。前回の理事会以降、各種委員会活動あるいは資格試験等滞りなく進められたとのことで、各委員長・理事・委員の先生方には感謝申し上げます。今回の理事会は本年度最後ということで、来年度の事業計画、予算案、次期理事候補および理事長候補者の確認事項など、今後の本学会の活動において重要な審議事項がある。限られた時間ではあるが、しっかりとした審議をお願いしたい。

*副理事長報告（齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光）

齋藤 豪 副理事長： 細胞診精度管理アドバイザー制度の作業を進めている。2年後を目途に認定作業とそれに伴う予算措置を検討する段階に入っている。実のある細胞診精度管理アドバイザー制度を確立し、会員の増加に繋げられることを目指している。

中村 直哉 副理事長： 公財化 10 周年の記念誌については、ほぼ原稿の固定が完了した。今後、校正・製本作業に移りたいと考えている。

森谷 卓也 副理事長： （欠席）

森井 英一 副理事長： 理事候補選挙は滞りなく終了した。次回の選挙から電子投票への変更を考えている。全般的に電子化を進めたいと考えており、各方面との調整を行っている。

岡本 愛光 副理事長： 健全な学会運営には健全な財務管理がとても重要であると考えている。本日は予算案の審議があり、皆様の厳しいチェックをお願いしたい。

前回（2022 年度第 3 回理事会）議事録について

2022 年度第 3 回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2023 年 1 月 27 日現在）

全会員数：12,929 名

（正会員 5,716 名、準会員 6,976 名、名誉会員 37 名、功労会員 186 名、図書会員 14 件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,247 名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,020 名、細胞診専門歯科医 120 名）

FIAC：110 名 MIAC：34 名

細胞検査士数：8,233 名（実数）（認定 11,187 名）

CT(IAC)：3,769 名

物故会員（2022 年 10 月 18 日～2023 年 1 月 27 日）

功労会員 宇田川 康博 殿（獨協医科大学 特任教授）

伊藤 耕造 殿（医療法人社団マリア会聖マリアクリニック）

正会員 石垣 實弘 殿（石垣クリニック）

佐藤 久佳 殿（東海大学医学部附属八王子病院 中央臨床検査科）

黙祷

大会準備状況

第 64 回春期大会（藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023 年 6 月 9 日（金）～11 日（日））、第 62 回秋期大会（横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023 年 11 月 4 日（土）～5 日（日））、第 65 回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024 年 6 月 7 日（金）～9 日（日））、第 63 回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024 年 11 月 16 日（土）～17 日（日））、第 66 回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025 年 6 月 27 日（金）～29 日（日））、第 64 回秋期大会（有廣 光司、リーガロイヤルホテル広島・ホテル メルパルク広島、2025 年 11 月 29 日（土）～30 日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

なお、第 64 回春期大会藤井大会長より下記審議の依頼がなされ、承認された。

〔審議事項〕

1. 第 64 回春期大会におけるアジアフォーラムの日本婦人科腫瘍学会との共催について
審議結果⇒承認
2. 第 64 回春期大会における市民公開講座の藤田医科大学がん医療研究センターとの共催について
審議結果⇒承認

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。

〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 情報処理委員会事務局 WEB 会議（伊豫田 明 委員長主催）に参加し、HP 管理（改修）、マイページ項目などの検討協議に加わった。また、第 55 回細胞検査士 2 次試験結果情報が HP 公開予定前に漏れた件について口頭にて報告する。
3. 2023 年度 4 月 22 日に、理事候補懇談会と 2023 年度第 1 回理事会を開催予定である（ハイブリッド開催にて準備中）。
4. 第 31 回日本医学会総会 拡大登録委員会に 1 月 31 日に出席し、本学会からは 118 名が参加登録を済ませ、141 学会中 64 番目の参加者数であった。2 月 17 日に早期割引は終了したが、事前登録は継続中である。また 2 月 10 日に日本医学会連合加盟学会連絡協議会に参加した（医学会におけるダイバーシティの取り組みと課題について）。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）【資料あり 議事録 3 点】

〔事業計画〕

1. 学会ホームページ、マイページの改善

〔報告事項〕

1. 第 55 回細胞検査士 2 次試験結果情報漏洩疑い案件について

本来であれば、2022 年 12 月 19 日 12 時に結果がホームページ上で発表されるべき第 55 回細胞検査士 2 次試験結果が、その前に SNS に挙げられており、それに気づかれた先生から執行部にメールがあった。

18 日の時点で確認してみると、今年発表の試験結果 URL が昨年発表の URL の 54 の部分を 55 に変更しただけであり、容易に推測され、不特定の会員にアクセスされて、それを予定されていた試験結果発表時間前に SNS に挙げられたと考えられる案件である。

上記について参加者で、下記事項の確認が行われた。

- ・試験結果のホームページへの公表時期は受験者に事前には明示していなかった。
- ・試験結果のホームページへの公開はサービス業務であり試験結果の確定は紙面の送付である。
- ・情報公開日前に知り得た情報を SNS 挙げたことは問題と考える。
- ・本来の公開前に情報にアクセスできた状況は情報管理上問題である。
- ・専門医試験でも同様の操作ができる可能性がある。
- ・今後試験結果の公表方法については、当該委員会にて検討していただく必要がある。

以上の結果から

- ・ホームページへの公開に際しては秘匿義務のある情報か否か、区別する必要がある。
- ・秘匿義務のある情報は、公開前に情報漏洩しないよう URL の設定、セキュリティー（公開までロックをかけるなど）などに留意すべきである。
- ・理事長、総務委員長など確認する事項以外で、ホームページに掲載される事項についてどのようなものがあるのか、情報処理委員会にてチェックが必要のものはどのくらいあるのか、事務局と確認していく。
- ・今後も継続して、情報管理について情報処理委員会と事務局で密に連携を取りながら確認していく。

2. バナー広告について

株式会社 HOKUTO より掲載希望の申し込みあり、細胞診断学と直接関連がないため委員会で審議を行い、最終的に掲載可と判断した。

3. マイページの項目追加について

容量の問題で、現在の状況にてすでに容量限度に近いことから、追加の項目造設は難しい旨報告があった。

4. ホームページの改修

ホームページの改修について業者に問い合わせを行った。改修する場合には項目毎の見

積みもりではなく、全ての修正項目が出そろった時点で見積みもりを作成する方向で業者から検討を依頼された。今後情報処理委員会にて修正項目を検討し、見積みもりを依頼する予定である。表紙の部分を中心に南委員にたたき台を作成していただき、本委員会で議論することとなった。次期委員会に申し送ることを検討している。

5. ガイドラインのホームページ掲載について

公開する場所、リンクを貼る位置等を確認し公開された。

〔審議事項〕

1. 第55回細胞検査士2次試験結果情報漏洩疑い案件について

佐藤 之俊 理事長より第55回細胞検査士2次試験結果情報漏洩疑い案件について以下の追加報告があった。

・本来は書面による合格通知を行っているが、サービスとしてホームページで公開することを慣習として行ってきた。それを格納しておく URL が簡単に推測されるものであったため、それに気付いた人が数年にわたりホームページ公開前に SNS で配信していたという事案である。セキュリティーの強化に関しては、情報処理委員会で進めていただく。当事者は地方における細胞検査士の教育に活動しており、本学会の HP の内容を転載許可なく教育に用いていたが、学会の教育コンテンツを使用して教育を行う場合は、学会に許諾を取る必要がある。これまで許諾を取るにあたり当学会にはサイトポリシーの基準がなかったため策定作業を進めている。）

・サイトポリシーの基準の策定・見直しを進める。

審議結果⇒嚴重注意とする

質疑：

・前田 一郎 理事：本件は嚴重注意で終了ということによいか？

→ 理事会の先生方の意見を伺った上で決定したい。（佐藤 之俊 理事長）

・都築 豊徳 理事：当事者以外にも複数名が同様のことを行っているようであり、根深い問題ではないかと考えている。警告文を出して他の情報発信者に対して自覚を促すべきではないかと考える。

→ 今回の当事者個人の行ったことを公開しコメントするのではなく、根も葉もない SNS 発信に対し当学会がどのように対応するかを明確に発信することが真意である。当然弁護士にも相談はしており、正しくない内容の SNS 発信に対しては、今後、法的に強い手段としては発信者情報開示命令申し立て、名誉棄損の民事訴訟請求、投稿記事削除仮処分命令申し立てなどの手段があり、これらを行うこともあるというような強い口調で文章として発信することを考えている。（佐藤 之俊 理事長）

・進 伸幸 総務委員会委員長：渉外・広報委員会において、転載に関する基準や請求する費用については今後ご検討いただく。

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2023 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。

〔報告事項〕

1. 2023 年度最優秀論文賞の選考
2. 班研究に対するグラントナンバーを作成した。
3. 「学術集会のあり方・申し合わせ事項」一部変更（制度審議委員会提出済み）

〔審議事項〕

1. 「学術集会のあり方・申し合わせ事項」の一部変更について

審議結果⇒承認

質疑：

・森井 英一 副理事長：オンデマンド配信の視聴ログを取ることは可能であるが、ログイン・ログアウト時刻を取ることができない。100 コンテンツをオンデマンドで配信し視聴するところまでは、200 万円強の予算でできそうである。（視聴の有無は確認可能であるが、単位発行までとなると予算超過となりそうである。）

・藤井 多久磨 理事：日本産科婦人科学会の連絡窓口については確認が必要である。

・藤井 多久磨 理事：大学院生の学会参加費について・・・大会長の決定（上限 10,000 円）となることを確認した。

・藤井 多久磨 理事：オンデマンド配信は、大会長に費用を渡し大会長の業務として行う案はどうか？

・森井 英一 副理事長：オンデマンド配信業務についてはその案も含め事務局と相談していく。

・横山 正俊 理事：オンデマンド配信を事務局、大会長いずれの業務とするのかを決定していただきたい。

・森井 英一 副理事長：専門医機構の e ラーニング付きの配信となると、費用が 500-600 万と高額になるので、その点も含めて検討していく。

計理委員会（委員長 田畑 務）【資料 1】

〔事業計画〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と 2 回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。

〔報告事項〕

1. 2023 年度予算案の作成を行った。各委員会の報告の後で審議いただく。
2. 例年、学術集会事務局に提出をお願いしている予算書のデータと、予算案の科目に齟齬があったため、修正版を作成した。（資料 1）

3. 2023 年 4 月 13 日(木)細胞学会事務局にて 2022 年度の決算を中心とした監査会を開催予定である。

4. その他

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 矢納 研二）【資料 1～2】

〔事業計画〕

1. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼原稿を予定（編数未定）。
2. 春期大会、秋期大会開催中に 2 回、それ以外に 4 回の編集委員会を開催予定。
3. 編集委員会で独自に特集を企画し、その領域に合致する論文の投稿を呼びかける。
4. 第 64 回日本臨床細胞学会総会に於いて、演題の一部を論文化する事業に関して試験運用を行って頂き、学術集会終了後、検証を行う。

〔報告事項〕

1. 編集作業中の投稿論文（資料 1）。

2023 年に 1 月以降の論文投稿数は、2023 年 3 月 17 日現在で 11 編である。

〔審議事項〕

1. 日本臨床細胞学会誌閲覧制限の撤廃を提案

審議結果⇒承認

2. 投稿規定一部改訂（資料 2）

(1) 非学会会員を共著者として認める責任主体を編集委員会から編集委員長に変更

(2) 「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省（令和 3 年 3 月 23 日一部改正））に関し、令和 4 年 3 月 10 日に一部改正されたため、URL を変更（<https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf>）

審議結果⇒承認

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 令和 4 年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 令和 5 年度細胞診専門医資格更新
3. 令和 5 年度細胞診専門医資格認定試験

〔報告事項〕

1. 令和 4 年度細胞診専門医資格認定試験

令和 4 年 12 月 17 日（土）に AP 浜松町で実施した。今回の試験も筆記試験および細胞診断試験（プリント問題）は従来通り、検鏡試験はバーチャルスライドで行った。総合科 127

名、歯科 10 名が受験した。合格率は総合科 85.8%、歯科 70.0%であった。前回と同様にバーチャルスライドを用いた試験は問題なく実施できた。また、採点システムの更新により、短時間で採点、分析が可能であった。令和 3 年度に比べて受験者数が減少したため予定通りの時間帯で終了できた。

2. 令和 5 年度細胞診専門医資格認定試験

病理専門医受験予定者の合格通知確認が年末になるため、令和 5 年度の細胞診専門医資格認定試験は令和 6 年 2 月に予定している。細胞診専門医試験委員会委員長には近内勝幸先生を任命する。

3. 令和 4 年度細胞診専門医資格更新

今年度の対象者ナンバーは、0001-0593、0900-1005、1242-1308、1510-1587、1798-1876、2275-2366、2673-2765、3052-3137、3405-3500、8018-8034、8056-8060 である。5 年毎更新の新単位制度による 3 回目の資格更新となる。昨年同様に、資格更新申請用フォーマットによる web 申請とした。12 月 10 日（土）に web 申請を締め切り、令和 5 年 2 月 25 日（土）に web 会議にて資格更新審査を行なった結果、全更新対象者数 819 名中、更新可 627 名（76.6%）、前回保留更新で今回 60 単位以上取得 5 名（0.6%）、単位 OK 要審査 3 名（0.4%）、単位不足要審査 65 名（7.9%）、未申請 81 名（9.9%）、更新辞退 11 名（1.3%）、退会・退会申請中 19 名（2.3%）、ご逝去 2 名（0.2%）であった。要審査および未申請者に対して対応中である。

4. サブスペシャリティー領域専門医について

細胞診専門医の学会認定機構承認サブスペ専門医への申請については、病理学会サブスペ連絡協議会を通じて昨年 9 月末に申請書類（レビューシート）を機構に提出した。現在審査結果待ちである。

5. 細胞診精度管理アドバイザーについて

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ（齋藤豪委員長）の意向を受けて、細胞診精度管理アドバイザー（子宮頸がん）の位置づけや認定条件について検討中である。2023 年度内には松浦祐介担当理事を中心に施行細則（案）を作成する予定である。

6. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 42 コンテンツ（含 指導医講習 9 コンテンツ）、領域講習 66 コンテンツ、検査士講習 25 コンテンツをアップした。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）【資料 1, 2】

〔事業計画〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定）申請書提出締切：2023 年 4 月 30 日（日）
2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）申請書提出締切：2023 年 3 月 31 日（金）
3. 2022 年度・年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設） 年報提出締切：2021 年 3 月 31 日（金）
4. 2023 年度・内部精度管理（実地調査 4 カ所）：内部精度管理 WG（浦野誠 WG 長）のもとで 2023 年 7～9 月頃実施予定。（コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定）
5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理 WG のもとで、2024 年度に実施予定。（2 年毎に実施）
6. 2023 年度 年報会議、内部精度管理 WG、外部精度管理 WG を行う。

〔報告事項〕

1. 2022 年度 新規施設認定について
9 施設の申請があり審査の結果、①認定 4 施設、②条件付認定 2 施設、③認定不可は 3 施設、となり、イエローページ（2022 年 7 月号）に施設名を掲載した。
2. 2022 年度 新規教育研修施設認定について
1 施設の申請があり審査の結果認定され、イエローページ（2022 年 7 月号）に施設名を掲載した。
3. 2022 年度 認定施設 更新状況（2023 年 1 月 20 日（金）現在）
全更新対象施設数：73 施設、更新可：71 施設（97.3%）、未申請：1 施設（1.4%）、更新辞退：1 施設（1.4%）
4. 2022 年度 教育研修施設 更新状況（2023 年 1 月 20 日（金）現在）
全更新対象施設数：51 施設、更新可：49 施設（96.1%）、未申請：2 施設（3.9%）
5. 2021 年度 認定施設年報提出状況（2023 年 1 月 20 日（金）現在）
全 869 施設中 提出：858 施設（98.7%）、未提出：11 施設（1.3%）
6. 2021 年度 教育研修施設年報提出状況（2023 年 1 月 20 日（金）現在）
全 322 施設中 提出：329 施設（99.1%）、未提出：3 施設（0.9%）
7. 2021 年度・内部精度管理（コロナ禍のため 4 施設の書類審査）
内部精度管理 WG（浦野誠 WG 長）のもとで 4 施設の審査の結果、公立学校共済組合近畿中央病院で要改善の項目（細胞検査士認定証の添付なし、症例検討会の記録不備）があったため、改善するように指導した。改善の報告があれば総合評価を良に変更することとした。それ以外の施設ではいずれも調査項目すべてにおいて良好な評価であり、総合評価【良】と判定された。
8. 2022 年度・内部精度管理（コロナ禍のため 4 施設の書類審査）：内部精度管理 WG（浦野

誠 WG 長)のもとで、4 施設(日本細胞医学研究所(神奈川県)、神戸市立医療センター中央市民病院(兵庫県)、佐野医師会病院(栃木県)、日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院(東京都))の書類審査を実施中。

9. 2022 年度 外部精度管理(全認定施設でコントロールサーベイ)を湊宏 WG 長中心に実施した。

全認定施設 873 施設の内、参加：846 施設(96.9%)、不参加：27 施設(3.1%)で、結果及び解答の詳細は 2023 年 1 月末に学会ホームページに掲載予定。

第 64 回日本臨床細胞学会総会(2023.6)で問題の解説予定である。

〔審議事項〕

1. 施設認定に関する施行細則(附則)の改訂について(資料 1-1.1-2)

審議結果⇒承認

2. 精度管理ガイドラインの改訂について(資料 2-1,2-2)

審議結果⇒承認

細胞検査士委員会(委員長 都築 豊徳)【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2023 年度(第 56 回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は 2023 年 10 月 28 日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施する予定。

二次試験は 2023 年 12 月 2 日(土)・3 日(日)に、名古屋会議室 プライムセントラルタワー 名古屋駅前店にて実施する予定。

2. 2023 年 CT (IAC) 資格認定試験

2023 年 6 月 24 日(土)に 4 年ぶりに実施する予定。試験会場は AP 浜松町を予定。学会ホームページに案内を掲載。実技試験は未だ復活させる状況にないため施行しない予定。FIAC 試験も同日に実施される。

〔報告事項〕

1. 2022 年度(第 55 回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は 2022 年 10 月 29 日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施した。

受験者数：合格：298 人(405 人)、合格率は 46.7% (64.8%)、不合格：345 人(欠席者 5 名含む)(224 人)

二次試験受験者数：

298+178(一次免除) = 476 人(559 人)

参考：()内は昨年度(第 54 回)の実績。

二次試験は 2022 年 12 月 3 日(土)・4 日(日)に、ウインクあいち(愛知県、名古屋市)に

て実施した。

受験者数：474 人（558 人） 合格：246 人（228 人）、合格率は 51.9%（55.4%）、不合格：228 人（失格者 1 名、欠席者 2 名含む）（249 人）、翌年一次免除者 144 名（190 人）

参考：（）内は昨年度（第 54 回）の実績。

一次試験の合格率が低下したが、合格基準点は変更しておらず受験者の質の低下の可能性が危惧される。二次試験における 1 名の失格者は、試験時間終了後に試験委員の制止を振り切ってマークミスの訂正を続けたという受験者であり、厳正に対処した。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2023 年度細胞検査士資格更新作業

69-137、273-363、585-759、1061-1146、1558-1829、2458-2692、3458-3666、
4453-4725、5350-5618、6204-6369、6944-7208、7877-8158、8870-9151、
9880-10149

※2024 年 2～3 月に更新審査予定

〔報告事項〕

1. 2022 年度細胞検査士資格更新作業中

1-8、9-68、195-272、440-584、913-1060、1354-1557、2259-2457、
3120-3457、4210-4452、5135-5349、6051-6203、6749-6943、7686-7876、
8613-8869、9559-9879

全 1902 名

審査結果は、

更新可 1704 名（89.6%）

前回条件付更新可で今回更新可 16 名（0.8%）

条件付更新可 6 名（0.3%）

単位不足にて追加書類提出依頼・支部所属確認等を行う 29 名（1.5%）

未申請 91 名（4.8%）

更新辞退 14 名（0.7%）

退会済・退会申請中 42 名（2.2%）

上記の内、単位不足にて追加書類提出依頼・支部所属確認等を行う 29 名には連絡済みで、追加書類等提出いただいた結果、更新可 21 名、最終確認中 7 名、要審査（病気の診断書提出）1 名。

未申請の 91 名へはレターパックプラスにて最終意思確認をし、期限（2023 年 3 月 31 日（木）必着）までに応答の無い者は資格失効とする。

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）【資料1】

〔事業計画〕

1. 2022 年度 第 85 回細胞検査士ワークショップ開催
(Web 3/12-28, On site 3/19, 資料 1)
2. 2023 年度 各種セミナー開催準備

〔報告事項〕

1. 細胞診断学セミナー鏡検実習（61 名（ホテル仙台ガーデンパレス、11 月 5 日～6 日）終了し、アンケート実施したところ、講義（WEB）と鏡検セミナー（現地）を別開催として鏡検セミナーを 2 日間程度に短縮することを希望する意見が多く出た。
2. 2023 年度 細胞検査士養成講習会・細胞診断学セミナーの会場確保が難航したが、例年通りの開催回数・予算で開催できる見込みである。

〔審議事項〕

1. 現地開催 2 回としている細胞検査士教育セミナーを、現地開催＋WEB 開催とすることについて
2. 将来的に、細胞診断学セミナーを講義（オンデマンド）と鏡検セミナー（現地）を分離した形で開催することについて

審議結果⇒継続審議（オンデマンド配信を活用する方向で教育委員会にて検討いただく）

質疑：

会場費の節約、講師の負担軽減、参加者が 4 日間連続で休暇を取る必要がなくなる、オンデマンドで講義内容が閲覧可能であるなどのメリットがある。

・佐藤 之俊 理事長：細胞診断学セミナーを講義（オンデマンド）と鏡検セミナー（現地）に分けて開催することに賛成する。細胞検査士教育セミナーは、web 開催を利用して 1 回での開催とし、会場も安価なところへ変更してはどうか。

・森井 英一 副理事長：オンデマンド配信の活用は賛成である。また、教育コンテンツを学会として蓄積し、有料で公開していくシステム作りが今後大切であると考えている。

渉外・広報委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. 渉外・広報委員会委員長（三上）が2023年1月13日（木曜、13:30～15:30）に開催された一般財団法人医療関連サービス振興会の令和5年度第1回衛生検査所調査指導中央委員会に副委員長として出席した。
2. 第31回日本医学会総会（2023年4月21日～23日、東京）で企画されている分科会/加盟学会展示のためのポスター（最終版）を2022年12月19日に学会事務局（分科会/加盟学会展示準備室）に提出した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2024年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
2. 今後の予定
2023年4月7日 内保連への提案書最終提出締切
2023年5月 内保連によるヒアリングの実施
2023年5月末 内保連各委員会での最終調整締切
2023年6月 提案書を厚労省に提出
2023年7月 厚労省のヒアリング

〔報告事項〕

1. 令和6年度診療報酬改定に際して以下の項目を中心に内保連、厚生労働省に提案していく予定である。
 - ・ 細胞診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大（既収載項目）
 - ・ 迅速細胞診（検査中の場合）、乳腺、甲状腺への適用拡大
 - ・ 迅速細胞診（検査中の場合）、適応疾患の拡大（既収載項目）、
 - ・ 免疫染色、細胞診への適用拡大（既収載項目）
 - ・ 感染対策加算（基本診療料 感染対策加算の要項の変更として提案）

他に主学会として以下を提案予定

- ・ 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
- ・ 細胞診精度管理料
- ・ 液状化検体細胞診加算の見直し

共同提案として以下を提案予定

- ・ 病理診断デジタル化加算（日本病理学会）
- ・ 連携病理診断診療情報提供料（日本病理学会）
- ・ 国際標準病理診断管理加算（日本病理学会）

- ・ 病理診断のための遺伝子変異検索（日本脳神経外科学会、日本病理学会）
- ・ 病理解剖料（日本病理学会）
- ・ 気道より採取される細胞検体における特殊染色加算（日本呼吸器内視鏡学会）
- ・ セルブロック法による病理診断（乳癌）（日本乳癌学会）
- ・ 超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法以外の気管支内視鏡下生検実施時の迅速細胞診（日本肺癌学会）

〔審議事項〕

なし

質疑：

- ・ 前田 一郎 理事：

病理診断デジタル化加算には細胞診は含まれないのか？

→細胞診に対応するデジタルスキャナは現時点で厚労省の認可を受けていないので、細胞診は入らない。

液状化検体細胞診加算の見直しの内容は？

→婦人科領域以外への拡大と、全体の LBC の値段の底上げを考えている。

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 2021 年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。
(締切：2023 年 2 月下旬)
2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

〔報告事項〕

1. 2021 年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
2021 年度報告書の提出の案内は、メールにて送付済。昨年度よりアンケートフォームを利用して提出をお願いしている。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：
 - 1) 2022 年度の活動支援の申請件数 38 件（47 件中）
(申請なし 9 件：、茨城、栃木、山梨、滋賀、大阪、奈良、岡山、山口、徳島)
開催後、実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5 万円を上限とした助成金支援を行う。
2023 年 1 月 31 日現在 調査集計 内訳（申請件数 38 件中）
開催中止：2 件（鳥取・愛媛）
開催実施済：36 件
助成金支払済：20 件 （※秋田県については活動のみ・助成金不要）
残り 16 件については、2 月末までに支払い完了予定。

- 2) 2023 年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金 5 万円を上限とし、希望する地域学会は 2023 年 3 月末日までに、申請書を提出するように依頼する。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）【資料 1-8】

〔事業計画〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
第 64 回春期大会;2023 年 6 月 9 日(金)～11 日(日);名古屋
座長 ; Dr.Takayuki Enomoto, Dr.Margaret Cruickshank
演者 ; Dr.Ida Ismail-Pratt , Dr.Jatupol Srisomboon, Dr. Koum Kanal,
Dr. Jargalsaikhan Badarch, Dr. Hiroshi Nishio で開催予定
第 62 回秋期大会;2023 年 11 月 4 日(土)～5 日(日);福岡
→ 横山会長とテーマ・演者等検討中
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
＜韓国＞
第 20 回日韓細胞診合同会議 ;
2023 年 9 月 2 日(土) 群山市 Gunsan Saemangeum Convention Center にて開催予定
＜タイ＞
第 28 回日-タイ細胞診ワークショップ
2022 年 1 月 19 (水) ～21 日 (金) Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand →中止
タイ側では、タイ国内における対面式開催を希望、web や hybrid 開催の予定はなし
2023 年度については第 28 回 1/17-19 チェンマイで調整中
＜中国＞
2022 年 8 月の中国細胞学会への講演要請があったが、web 講演での通訳の問題が解決できず見合わせた。
2023 年 6 月 9-11 日の武漢での第 21 回中国医学会細胞病理学全国大会に JSCC 会員の参加を歓迎するとの連絡
日中間での航空機の運航が正常化していないため、参加は困難と考えられる。
3. IAC, ECC のサポート
4. カンボジアとの交流サポート
5. JHU-ASC-JACC joint cytopathology course の企画運営
6. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔報告事項〕

1. JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course
パンフレット（資料 1）・プログラム（資料 2）・参加者アンケート結果サマリー（資料 3）・

原本（資料4）・会場写真（資料5）・収支報告（資料6）

2. JSCC Companion Meeting （資料7）

ボルチモアでの ICC 開催期間中に JSCC companion meeting を開催

2022, Nov 19 (Sat.) 8:00-10:00

3. 第 19 回日韓細胞診合同会議 （資料8）

2022 年 9 月 3 日(土)(10:20-12:40・web)日本から 34 名参加

〔審議事項〕

1. カンボジア支援について（若狭委員）

2023 年の春期大会は COVID19 のためにカンボジア支援事業による派遣者なし（アジアフォーラムには藤井大会長のご厚意によりカンボジアから招聘）。2023 年秋期大会に 1 名招聘したいが、円安により 10 万円では招聘困難のため、春期大会で使用しなかった予算を含めて 20 万円の予算で招聘したい。

審議結果⇒承認

2. 今後の JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course の運営について

＜開催意義の再確認＞

- ・ ASC の著名な cytopathologist の講演を、ASC に行かなくても拝聴できる
- ・ 過去 2 回の参加者の満足度も高い
- ・ ASC の要人と親密な友好関係を保つことは JSCC の国際戦略上も有意義

＜今回収支バランスが悪くなった理由＞

1) 参加者減少による収入の減少

正式な開催決定は 2022 年 10 月であり、10 月以降も新規感染者の増加もあり参加者登録数が伸びず、本会会員への一斉メール・イエローページ・各種学会幕間スライドでの宣伝等の広報活動を精力的に行ったが、最終的に 66 名の参加にとどまった。（参加者アンケート非常に好評であり、ポストコロナになれば、参加者は増える可能性が高いと思われる）

2) 安価な会場確保が困難

新型コロナウイルス感染症のために会場の選択肢が限られたこと、正式な開催決定がなかなかできなかったため、使用料の安い会場の確保ができなかった。

3) コンベンション会社の経費

第 1 回目は慶応大学病理学教室や JSCC の事務局のご厚意に甘えてワークショップの準備・会場設営をしていただいたが、非常に負担が大きかったため、第 2 回目はコンベンション会社に業務委託を行った。そのため、会の準備・運営は非常にスムーズであった。

＜収支バランス改善のための方策＞

1) 開催場所・会場の選定

- ・ 第 1 回；慶應義塾大学講堂（会場費；無料）

- ・ 第2回；ソラシティカンファレンスセンター（会場費；976,600 円）
 - ・ 吉田講堂（癌研有明病院）や大村記念ホール（北里大学）など、大学や病院の附属施設を利用することで、会場経費の削減が期待できる可能性
 - ・ その場合、施設関係者の協力が必須
- 2) 印刷物（ハンドアウト）の配布中止（今回印刷費：187,460 円）
- ・ 電子媒体のみでの配布
- 3) 録画、on-demand、リモート登壇等を行わない（今回リモート登壇機材：128,200 円）
- 4) 企業協賛の募集（ランチョン・スポンサードセミナーなど）
- ・ 顕微鏡システムや細胞診に関する製品を取り扱う企業であれば（細胞学会の協賛企業を参考に）協賛が得られる可能性？
- 5) 隔年開催
- 6) 海外演者の滞在中の経費削減

< 次回の開催予算について >

第2回 支出；583 万円（資料6）・収入；66 万円（66 人の参加費）

→ 会の運営に 517 万円を要した事になる

第3回の見積もり；383 万円

支出；計 80 万円の削減

- ・ 会場費；98→50 万円
 - ・ WEB 講演費用；13 万円→0
 - ・ ハンドアウト印刷費用の電子化；19 万円→0
- 収入；計 54 万円の増加（参加者 66 名→120 名と想定）

517 万円－（80 万円＋54 万円）＝383 万円

< 国際交流委員会からの提案 >

JHU-ASC-JSCC Cytopathology Workshop を JSCC の事業として定期的開催することを提案する。開催間隔（毎年・隔年・その他）については議論が必要。

審議結果⇒JSCC の事業として定期的に継続することは承認。開催間隔については継続審議とする。2023 年度は単年度として開催することを承認。

質疑：

・長村 義之 監事：このセミナーは、世界のトップレベルの演者の講演を聴講できる貴重な機会であり、学会として継続していくことをお願いしたい。

・佐藤 之俊 理事長：今回は準備期間が短かったため、結果的に周知徹底が不足し参加者が増えなかったと考える。本事業は、学会にとって収益事業ではなく公益に還元する事業のひとつであると捉えている。開催には周到な準備が必要であり、本日の理事会で開催間隔も含め決定していただきたい。

・前田 一郎 理事：もう少し学会員に還元できる形を検討してはどうか。具体的には、撮影は zoom だけにして、会場の雰囲気は GoPro で撮影するようにすれば撮影費の削減に繋がら

れるのではないか。そのデータを学会 HP で会員に公開すれば有益な学会事業となるのではないか。

・岡本 愛光 副理事長：英語での講演をハードルが高いと考える会員もいると思われる。同時通訳ソフトの進歩もあり、テロップで流すようなことも取り入れて参加者を増やすことを検討してみてもどうか。

・前田 一郎 理事：zoom は office365 を利用して自動翻訳を付けることは可能である。

3. 2023 年度に開催する場合には国際交流委員会として 383 万円の追加予算を申請したい。

審議結果⇒承認

質疑：

・田畑 務 理事：今回の予算案としては、469 万円余の黒字を予定しているので、追加予算は不可能ではないと考える。

・日本臨床細胞学会事務局：黒字の内訳は学会が 158 万円余、専門医会が 294 万円余であり、追加予算を組むのであれば専門医会の財産を使うことになり、そこに問題はないか？

→ 予算案審議の際に、審議を行う。

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子） 【資料 1～5】

宮城委員長欠席のため、以下報告を議長が行った。また、報告の 3-5 は、関係する編集委員会、学術委員会、施設認定制度委員会から報告がなされた。

〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルティングを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施

〔報告事項〕

1. 細胞診専門医委員会より審議依頼があった定款・施行細則 p. 84「細胞診専門医会に関する施行細則」および p. 87「細胞検査士に関する施行細則」改定案について令和 4 年 11 月 14 日（月）より 11 月 28 日（月）にメール審議を行った。内容は資料 1 議事録参照。
2. 細胞診専門医委員会より再審議依頼があった定款・施行細則 p. 84「細胞診専門医会に関する施行細則」および p. 87「細胞検査士に関する施行細則」改定案について令和 4 年 12 月 20 日（火）より 12 月 28 日（水）にメール審議を行った。内容は資料 2 議事録参照。
3. 編集委員会より審議依頼があった投稿規定改定案について令和 5 年 2 月 15 日（水）よりメール審議中（2 月 22 日時点）。内容は後日提出予定（資料 3） 議事録参照。
4. 学術委員会より審議依頼があった内規・申合せ集 p. 50「学術集会のあり方・申し合わ

せ」改定案について令和5年2月23日（木）よりメール審議中（2月22日時点）。内容は後日提出予定（資料4） 議事録参照。

5. 施設認定制度委員会より再審議依頼があった定款・施行細則 p.49「施設認定に関する施行細則」および「細胞診業務の精度管理ガイドライン」改定案についてメール審議を行う予定（2月22日時点）。内容は後日提出予定（資料5） 議事録参照。

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）【資料なし】

〔事業計画〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
2. 医療安全セミナー開催予定
第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
演題名： 医療の質管理って何ですか？楽しく安全な医療提供のために
演者： 藤田医科大学病院 医療の質管理室 室長 安田あゆ子先生
日時： 6月10日（土）10時10分～11時10分（会期：2023年6月9日～11日）

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー開催
第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
演題名： 医療安全の歴史を踏まえ、病理診断部門での医療事故事例を考える
演者： 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門
部門長 瀧浪将典先生
座長： 藤田医科大学医学部産婦人科学 藤井多久磨
日時： 2022年6月11日（土）15時40分～16時40分
会場： グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3F 香雲
第61回日本臨床細胞学会秋期大会
演題名： 医療訴訟から学ぶピットフォール
演者： 東京神楽坂法律事務所 水沼直樹先生
座長： 福島県立医科大学医学部産科婦人科学教室 教授 藤森敬也先生
日時： 2022年11月5日（土）17時～18時
会場： 仙台プラザホール 1F メインホール
2. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えた
（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
3. MSC ホットラインの活動報告
今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

4. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔事業計画〕

春期大会および秋期大会における医療倫理セミナーについて、大会長と協議の上、企画し開催する。

〔報告事項〕

1. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会の医療倫理セミナーについて、大会長からご推薦いただいた藤田医科大学医学部生命倫理学の飯島祥彦先生にご講演をいただく予定である。
2. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会の医療倫理セミナーについて、大会長の横山正俊 先生と協議中である。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

1. および発表者（非会員含む）の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 利益相反自己申告書の提出と回収。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会（委員長 小田 瑞恵）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を1回、春期大会で行う。（諸事情で大会中に委員会が開催されない場合は、Web 会議などで代用する場合がある。）
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔報告事項〕

現在進行中の臨床試験は以下の通りである。

- ・ 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ)（臨床試験主任研究者、青木大輔先生）
- ・ 「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」（臨床試験責任者、中澤匡男先生）の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討（管理責任者、佐藤之俊先生）

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）【資料 1-3】

〔事業計画〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 15 日から 20 日まで米国 Baltimore にて開催された。（佐藤 之俊 理事長（IAC Council Member）より、ICC2022 において、青木 大輔 理事が IAC Kazumasa Masubuchi Lifetime Award 2022 を、南部 雅美氏が IAC International Cytotechnologist of the year Award 2022 を受賞したことが報告された。）
2. ICC2025 がイタリアのフィレンツェで 5 月 11 日から 15 日に開催される。（資料 1-3）
同時期に開催される ECC への参加もよろしくお願いいたします。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）【資料 1】

〔事業計画〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の継続 …………… 添付資料
本年も昨年に引き続き、添付資料のように、研究事業を継続する。

〔報告事項〕

1. 2022 年度事業計画として 下記の研究事業を昨年度に引き続き継続する。

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)

- 1) 追跡調査 : 被験者の 6 年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を 2023 年 3 月 31 日までと 2 年間延長している(資料 1)。
- 2) データの解析、論文化 : 研究期間内を目途に作成。論文作成時には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。
- 3) 進行状況 :

本 CITRUS study は RCT なので、bias を回避するためデータ固定の後でないと両群の比較が出来ないことから、最終解析結果の発表までにはまだ時間が必要である。本研究は、追跡相に入った後に医療機関に対する追跡調査、一部のフォローできていなかった被験者に対する個別追跡調査を、研究事務局、データセンター (神戸 TRI)、EDC 管理担当 (メディカルエッジ)、関係医療機関と協力して実施し、2022 年 11 月にデータの固定を完了した。現在、最終解析、論文化を進めている。

(青木 大輔 理事より以下の報告があった。長期間を要する研究であったが昨年末にデータを固定することができた。解析計画を練り直し、現在解析に入っている。RCT であり、ある程度結果が確定した状態でないと公表できない事情があることをご理解いただきたい。途中から特定臨床研究に変更になり、計画にない費用が発生し学会にご協力をいただいたことを感謝申し上げます。)

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

【資料 1】

〔事業計画〕

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔報告事項〕

1. 指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討している。(資料 1)
2. 並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論している。
3. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質

保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔事業計画〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、追加検討に協力する。

〔報告事項〕

1. 指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討している。
2. 最近、呼吸器細胞診検体もゲノムプロファイリングのソースとして保険償還されることになったため、その点も含めて今後検討していく。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 新たに提案した 4 段階の判定基準を普及するため、呼吸器細胞診報告様式に関する追加研究をまとめる。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 異型細胞に関する検討を進める。

〔報告事項〕

1. IAC-WHO/IARC が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力した。
<https://tumourclassification.iarc.who.int/welcome/#>
近日、purple book という形で発刊予定である。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力した。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）WEB 公開した。
4. 異型細胞に関する検討を進めた。
5. 新たに提案した 4 段階の判定基準に関する検討を進めるため、呼吸器細胞診報告様式に関する研究を進めた。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也 代理：前田一郎）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析する。
2. 成果を日本臨床細胞学会・日本乳癌学会・日本病理学会などで発表。
3. 結果を論文発表。

〔報告事項〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析を行った。多施設共同研究の成果を第 61 回秋期大会で発表した。
2. 成果について論文化を目指している。
3. 乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也 代理：前田 一郎）

【資料なし】

〔事業計画〕

1. ワーキンググループのメンバー、および臓器・領域別の委員を選定する。
2. スケジュールを策定し、それに従って改定を進める。
3. 改定した内容を学術集会で発表、および学会ホームページ等で公表する。

〔報告事項〕

1. 2022 年秋期大会において、3 領域について解説を行った。
2. 改訂案が完成し、改定内容を学会ホームページに公開した。

〔審議事項〕

1. 細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループは改定案の完成と公表を行ったため、本年度をもって解散する。

審議結果⇒承認

デジタルサイトロロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

【資料なし】

〔事業計画〕

1. デジタルサイトロロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロロジーを使用した診断・判定機器の調査

〔報告事項〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査
3. 2022年度第2回デジタルサイトロジー・AI検討WG Web会議の実施
4. 「デジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）」合同委員会（日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本デジタルパソロジー研究会）

「デジタルサイトロジーは可能か？」という内容のCQ作成を進めている。

〔審議事項〕

なし

公益社団法人化10周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料2点】

〔事業計画〕

1. 理事長直属のワーキンググループにより事業を推進する。記念誌は2023年度に完成する予定。また、SNSを中心に広報活動を行う。

〔報告事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループにより3つの事業を開始した。

その内容は

- 1) 記念講演会・祝賀会については、2024年4月28日（日）に東京国際フォーラムにて開催することを確認した。さらに、本学会の歴史、10周年に会を行う意義、招待者（学会等）、など今後については検討を続ける。既に、IAC理事長、日本医学会会長、日本産科婦人科学会会長、日本病理学会会長、日本外科学会会長の出席の確認が取れている。
- 2) 記念誌編纂については、印刷体で製作すること、2023年をめどに完成することとし、執筆依頼を行った。
- 3) 広報活動については、キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域（ゲノム診療を含めた）の柱で進めること、他学会等との連携（委員を含め）を行うこと、SNS中心に発信すること、とした。

（資料1.2）

（岡本 愛光 副理事長より以下の報告があった。若手を中心とした小ワーキンググループを設立し、SNSを利用するなど効率的に学会のプレゼンスを示し、学会の目標を発信できる広報イベントの開催を検討している。）

2. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会中に会議を開催する予定。

〔審議事項〕

なし

膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 膵癌腹腔細胞診の各施設での判定区分や検体処理方法をアンケート調査する。
2. 診断一致率や診断基準をコンセンサス会議で検討する。
3. 抗凝固剤や溶血剤の細胞形態への影響を検討する。

〔報告事項〕

1. 膵癌取扱い規約では、「腹腔”洗浄”細胞診」ではなく「腹腔細胞診」と名称を統一することになっているため、ワーキンググループ名を「膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ」に変更することを通信理事会に提案し承認された。
2. 癌取扱い規約第 8 版「腹腔細胞診の実施法」の改訂についてワーキンググループ内で討議し以下のような最終案を作成し、通信理事会にて承認された。

【膵癌取扱い規約第 8 版改訂（最終案）】

腹腔細胞診の実施方法

- 1) 開腹直後または腹腔鏡下手術開始時に、腹水がある場合は腹水を、ない場合は生理食塩液 100 ml を静かに腹腔内に注入し、膀胱直腸窩あるいは Douglas 窩より洗浄液を採取して検査を行う。網嚢をあけることは必須とはしない。
- 2) 採取後は、速やかに検体を提出し標本作製を行う。細胞変性の可能性があるため抗凝固剤（3.8%クエン酸ナトリウム、ヘパリン、EDTA 等）の添加は推奨しない。ただし、血性の強い場合はこの限りではない。
- 3) 腹水または洗浄液を遠沈し、沈渣をスライドグラスに塗抹する。
- 4) 染色法は Papanicolaou 染色を基本として、Giemsa 染色や PAS 反応等を加えた 2 種類以上を行うことを推奨する。必要に応じ免疫染色やその他の特殊染色を追加する。

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 2023 年度・2024 年度理事候補選挙管理委員会（委員長 森井 英一）【資料 1 点】
 - 1) 2023 年 1 月 26 日（木）事前開票：選挙管理委員立会いの下に地方選出理事候補選挙事前開票を実施。
 - 2) 2023 年 1 月 27 日（金）第 3 回理事候補選出管理委員会にて次期理事候補 14 名決定。
 - 3) 2023 年 1 月 31 日（火）通信理事会にて地方選出理事候補者の承認。（0.05_2023・2024 年度全国区・地方区理事候補者一覧）
 - 4) 次回理事選挙における電子投票方針をまとめた。今後は総務委員会で議論の予定。

2. 2023 年 1 月 10 日みなし理事会報告

佐藤 之俊 理事長より、「膵臓腹腔細胞診標準化ワーキンググループ」へのワーキンググループ名称変更が承認されたことが報告された。

3. 理事長選挙スケジュール (0.06_理事長選挙・0.06_理事長選挙スケジュール_当日配布資料_2023・2024 年度理事長候補選挙管理委員会議事録案)

進 伸幸 総務委員会委員長より以下の報告があった。理事長候補の立候補受付が 2 名あり、施行細則に則り選挙が行われ、2023 年 3 月 8 日に開票作業を行った。岡本 愛光 副理事長が過半数を獲得され、理事長候補として選出された。

岡本 愛光 副理事長より、次期理事長候補選出につき挨拶があった。

4. 今後のスケジュール (0.07_今後のスケジュール)

2023 年度に開催される理事会のスケジュールの確認が行われた。

5. 会員資格停止者について (0.02_資料 1_会費滞納者一覧) ※次回 6 月の理事会で審議 2 年以上の会費滞納者は、2023 年 6 月の理事会決定で会員資格停止となることが確認された。

〔審議事項〕

1. 会員資格復帰希望者について (0.02_資料 2_会員資格復帰希望者)

審議結果⇒承認 (2 名の復会が承認された。)

2. 2023 年度予算案について (0.03_2023 年度予算案)

田畑 務 計理委員会委員長より詳細につき説明があった。

審議結果⇒承認 (国際交流事業費用 383 万円の予算を追加計上した上で承認する)

・日本臨床細胞学会事務局：公益社団法人全体の黒字は合計 469 万円余であるが、その内訳は学会単体が 158 万円余、専門医会が 294 万円余である。追加予算の計上にあたっては、専門医会の財産を使うことになるため、専門医会への確認が必要と考える。

→ 専門医会への確認はしておいた方がよいだろう。(田畑 務 計理委員会委員長)

・糸永 圭一 公認会計士：元来、検査士会、専門医会は別組織から成り立っていることもあり、そちらで生じた利益を学会が使用することの報告は必要であると考え。

・青木 大輔 理事 (専門医会会長)：専門医会は独立の会計を行っていたが、公益社団法人化に伴い法人の中の会計の一つという形となった。しかし、今までの収支状況は継続されているので、学会の方で 400 万円前後を使用するというのであれば学会の会計を赤字予算としていただく形となる。

・日本臨床細胞学会事務局：オンデマンド配信の費用 (春・秋 2 回×200 万円) も追加計上するのか？そうすると学会自体の赤字が大きくなっていくと思われるので、今後どうするか検討が必要である。

→ オンデマンド配信の費用は今回の予算に計上していない。(田畑 務 計理委員会委員長)

・森井 英一 副理事長：オンデマンド配信については現在協議中であり、決定事項ではないので国際交流事業費用とは別個に考慮すべきである。

・井上 健 理事：専門医会の会計は、専門医更新の関係で5年に一度は赤字会計となる年度がある。

・日本臨床細胞学会事務局：学会単体の収支が赤字となり、細胞学会の財産がマイナスになることを継続していった方がいいのかを考えるべきである。国際交流事業を毎年行い、毎年赤字となれば将来的に運営自体が成り立たなくなる可能性もある。

・榎本 隆之 国際交流委員会委員長：国際交流事業は、委員会としては毎年の開催を提案したが、コロナ禍で開催費用が増加していたという状況もあるので、コロナの影響がほとんどないと思われる2013年度に開催する際の収支状況を踏まえて、2024年度以降については改めて検討していただいてはどうか。とりあえず、2023年の単年度の開催を求めたい。

→ 2023年度の単年度の開催とするのであれば予算も組みやすいと考える。(田畑 務 計理委員会委員長)

・糸永 圭一 公認会計士：学会の予算がマイナスになる点については、削減可能な部分を削り必要な部分に充当する方針で今後の理事会で審議いただきたい。

・日本臨床細胞学会事務局：国際交流の費用は、事業費用となるのか委員会としての計上費用として捉えるのか？

→ 事業である。(田畑 務 計理委員会委員長)

3. 2023年度事業計画案(0.04_2023年度事業計画(案))

審議結果⇒承認(佐藤 之俊 理事長より説明があり承認された。)

4. 名誉・功労候補者一覧(0.09_2023年名誉会員功労会員候補一覧)

審議結果⇒承認(推薦を受諾された候補者は、受諾の確認を行った後、2023年6月の総会で名誉会員・功労会員となる。)

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本 愛光 副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2023 年 3 月 30 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

